



Nissan Chemical
CORPORATION
日産化学株式会社

ラウンドアップ®の現状説明会

2020年1月22日

財務部

農業化学品事業部

本日の内容

1. ラウンドアップ[®] 前年同期比売上高成長率
2. 日本におけるラウンドアップの歴史
3. IARC(国際がん研究機関)の評価と国の規制当局の判断
4. 米国における陪審員評決後の国内販売への影響
5. ラウンドアップの有効成分「グリホサート」の農薬登録
6. グリホサートの海外各国における規制状況と使用量
7. 安全性についての当社の対応と危機管理体制

1. ラウンドアップ 前年同期比売上高成長率

	2018実績			2019予想 (2019/5 発表)			2019予想 (2019/11 発表)		
	上	下	計	上	下	計	上実績	下	計
ラウンドアップ ^o ML	-19%	+0%	-8%	+7%	+3%	+4%	+8%	+4%	+5%
ラウンドアップ ^o AL	+2%	+11%	+5%	+31%	+11%	+25%	+7%	+0%	+5%
ラウンドアップ ^o 合計	-14%	+1%	-6%	+14%	+3%	+8%	+7%	+3%	+5%

- ◆ 2018年度上期は、天候要因（猛暑や自然災害）で減収
- ◆ 2019年度予想（2019/11発表）は、ALが販売戦略（ユーザー獲得のため低価格品比率増）から下振れ
(会計年度表記 例：2018年度= 2018年4月1日～2019年3月31日)

2. 日本におけるラウンドアップ®の歴史

ラウンドアップとは？

世界で最も使用されている除草剤です

有効成分は**グリホサート**

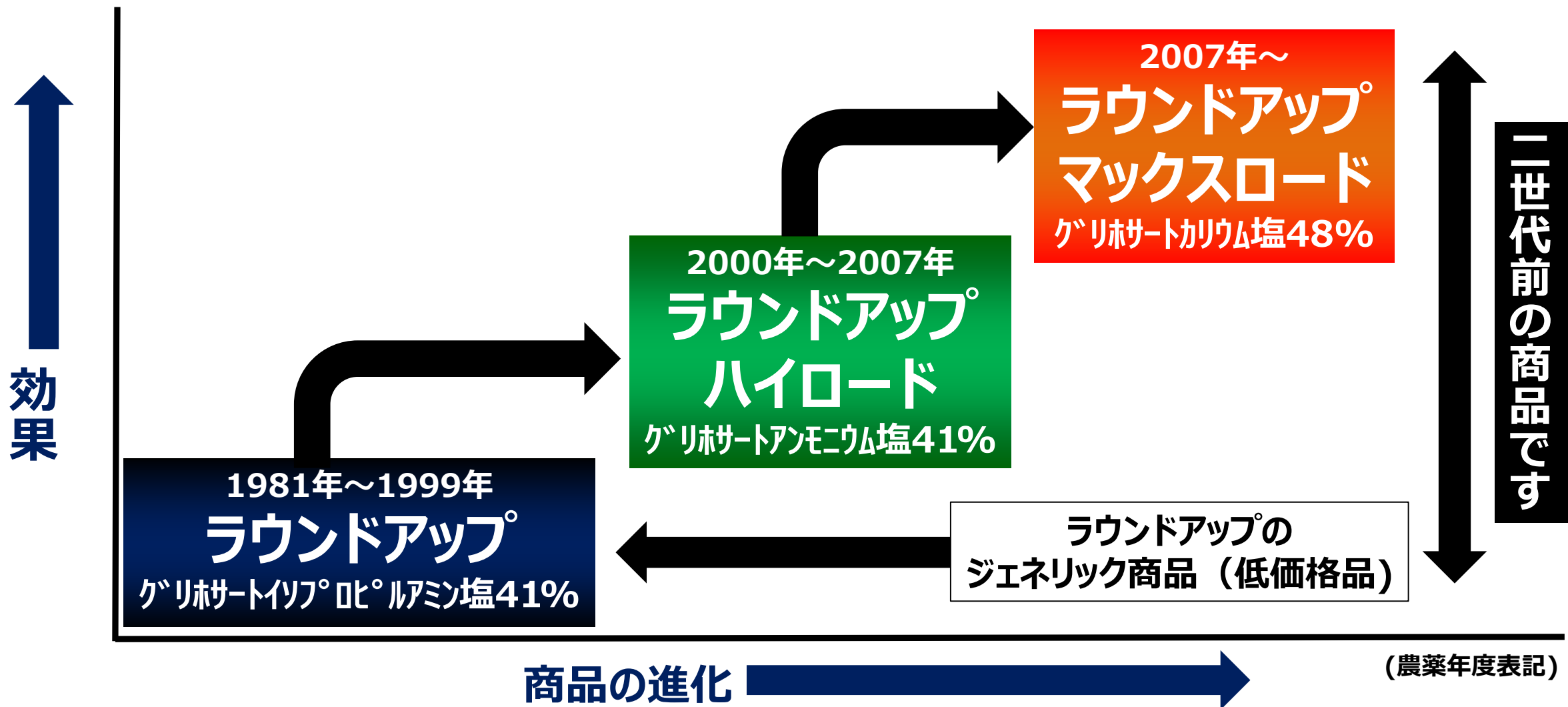
日本では

- 1980年 ラウンドアップ登録取得
- 1981年 国内における販売開始
- 1991年 ラウンドアップの patents 失効
- 1994年 ジェネリックの販売が始まる
- 2000年 **ラウンドアップハイロード販売開始**
- 2002年 日本モンサントから日産化学へ事業移管
- 2007年 **ラウンドアップマックスロード販売開始**
- 2011年 **ラウンドアップマックスロードAL販売開始**
- 2017年 **ラウンドアップマックスロードALⅡ販売開始**
- 2018年 **ラウンドアップマックスロードALⅢ販売開始**

今年で発売40年目

(農薬年度表記 例：2018年= 2017年10月1日～2018年9月30日)

ラウンドアップマックスロードとジェネリック商品



ラウンドアップ®の主な使用場面

農業市場

ラウンドアップマックスロード



米、麦、大豆、野菜等の植付前の雑草



水田畦畔の雑草



果樹園の雑草



ラウンドアップ®の主な使用場面

一般家庭市場

主にラウンドアップマックスロードAL商品

AL



AL II



AL III



玄関まわり



お庭のお手入れ



住居まわり



駐車場

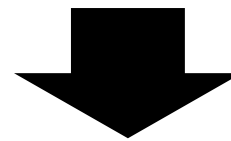


3. IARC(国際がん研究機関)の評価と 国の規制当局の判断

IARC(国際がん研究機関)のグリホサート評価

2015年3月、IARC(国際がん研究機関)がグリホサートを
グループ2A(おそらくヒトに対して発がん性がある)に分類した。

※2015年3月25日付 当社ニュースリリース参照



- 2017年7月、カリフォルニア州の「プロポジション65」に発がん性物質としてグリホサートを追加。
- 2018年8月、カリフォルニア州において「グリホサートの発がん性」についての注意(警告)義務を怠ったとして、モンサントに対する賠償判決。

IARC(国際がん研究機関)とは？

IARC(国際がん研究機関)とは？

➤ 世界保健機構（WHO）の下部組織

➤ IARCの発がん性の評価

公表されている限られた文献情報に基づき、物質や環境等の因子に発がん性があるかどうかという「根拠の強さ」を示すもので、物質の発がん性の強さや暴露量に基づくリスクの大きさを示すものではありません。

➤ IARCの規制権限

IARCは規制権限を有しておらず、農薬の製品安全性と認可に関する判断は、各国の規制当局の管理下にあります。

IARCによる発がん性の評価例

[IARCのグリホサートの分類] = 2A(ヒトに対して恐らく発がん性がある)

発がん性の分類	物質
グループ1 (ヒトに対する発がん性がある)	加工肉（ハム、ソーセージ、ベーコンなど）、タバコ、アルコール飲料、紫外線、太陽光など
グループ2 A (ヒトに対しておそらく発がん性がある)	グリホサート、赤身肉、アクリルアミド、熱い飲み物など
グループ2 B (ヒトに対して発がん性がある可能性がある)	伝統的なアジアの野菜の漬物、アロエベラ葉全体抽出物など

日本および世界各国の規制当局の判断

内閣府食品安全委員会(2016年7月)

グリホサートは神経毒性、発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

従って、ラウンドアップマックスロードの有効成分であるグリホサートは、国によって発がん性がないことが確認されています。

IARCと同じ国連のFAO/WHO合同残留農薬専門家会議 (JMPR) の見解

「食を通じてグリホサートがヒトに対して発がん性のリスクとなるとは考えにくい」

(2016年5月)

各国規制当局の判断

2015年11月 欧州食品安全機関(EFSA)

グリホサートは発がん性または変異原性を示さず、受精能、生殖、胚発生に影響する毒性を持たない。

2017年3月 欧州化学物質庁(ECHA)

グリホサートは発がん性物質、変異原性物質あるいは生殖毒性と分類する基準に合致しない。

2017年2月 米国環境保護庁(EPA)

グリホサートはヒトに対して発がん性があるとは考えにくい。

2019年4月 米国環境保護庁(EPA)

グリホサートは発がん物質ではないことを確認した。

カナダ保健省病害虫管理規制局 (PMRA)、ニュージーランド環境保護庁 (EPA)、
オーストラリア農業・動物用医薬品局 (APVMA) も同様の見解を示しています。

米国環境保護庁(EPA)の新たな見解

2019年8月

米国環境保護庁(EPA)は、カリフォルニア州が同州の「プロポジション65」に発がん性物質としてグリホサートを追加したことに基づいてグリホサート含有製品ラベルに発がん性ありと記載するよう求めていることは、**誤った情報を消費者等に伝えることと批判、ラベル記載している農薬登録者に対し90日以内に本注意書きを削除するよう指導した。**

4. 米国における陪審員評決後の国内販売への影響

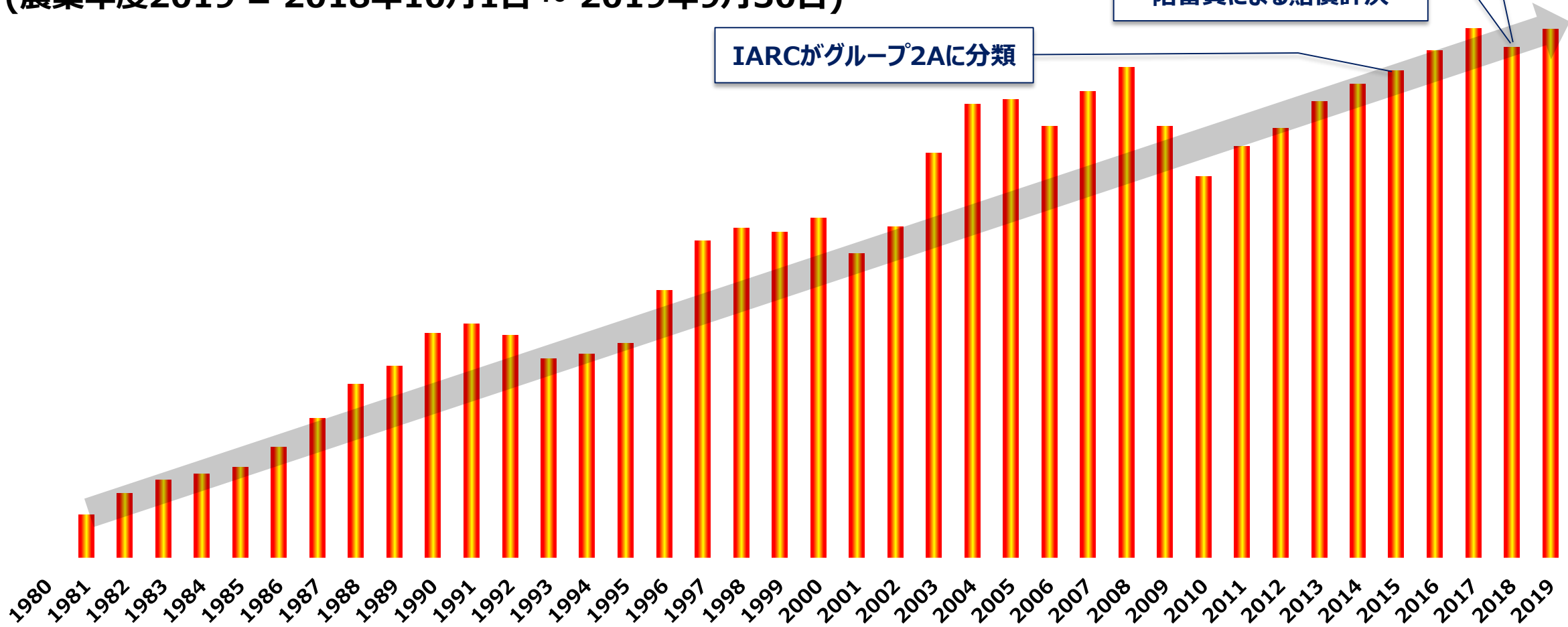
ラウンドアップ[®](AL除く)販売量推移

天候不順、自然災害の影響

(農薬年度2019 = 2018年10月1日 ~ 2019年9月30日)

カリフォルニア州において
陪審員による賠償評決

IARCがグループ2Aに分類



発売から40年、まだ販売量は伸びています。

農業市場大型規格200Lドラムの販売推移

(農薬年度2019 = 2018年10月1日 ~ 2019年9月30日)

過去最高実績

本数ベース

天候不順、自然災害の影響

カリフォルニア州において
陪審員による賠償評決

IARCがグループ2Aに分類

2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

一般家庭市場AL商品販売推移

(農薬年度2019 = 2018年10月1日 ~ 2019年9月30日)

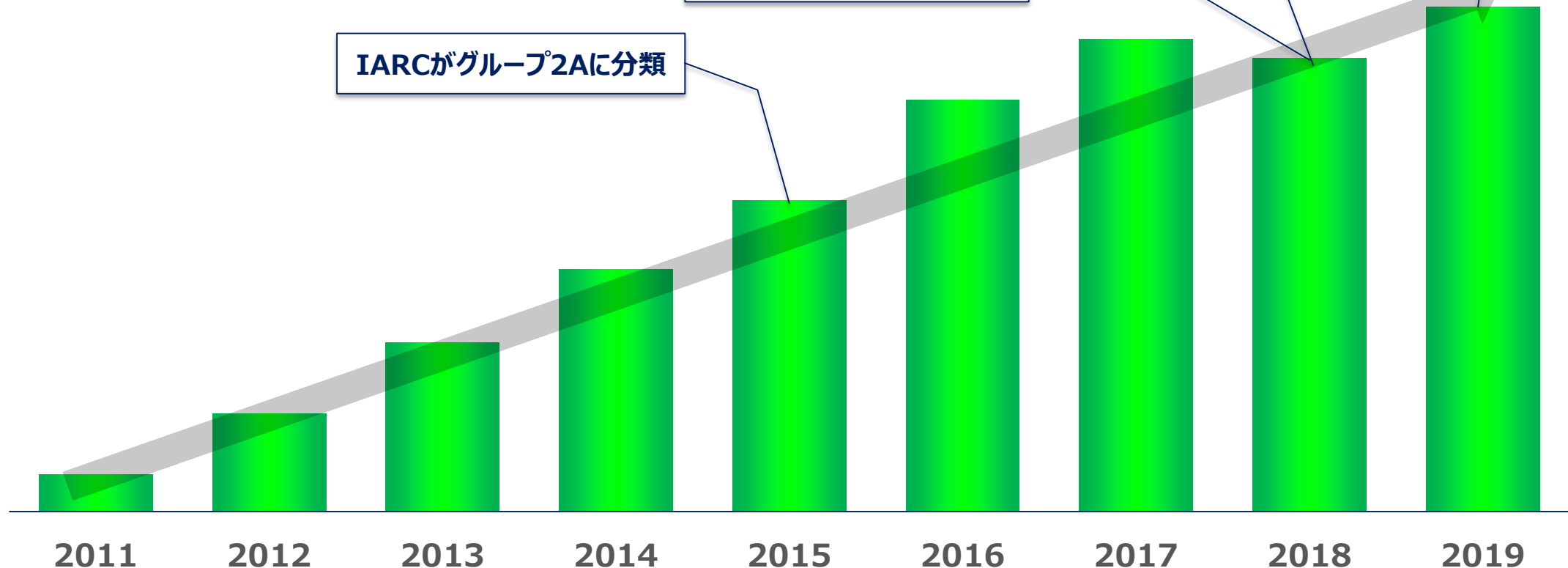
過去最高実績

本数ベース

天候不順、自然災害の影響

カリフォルニア州において
陪審員による賠償評決

IARCがグループ2Aに分類



農業市場、一般家庭市場いずれも、今回の問題による販売への影響は極めて限定的

5. ラウンドアップ®の有効成分「グリホサート」の農薬登録

グリホサートの農薬登録

グリホサート製品は農薬登録上、すべて一緒ではありません。

農林水産省登録品

食用・飼料用農作物に
登録がある登録品

食用・飼料用農作物に
登録がない登録品

ラウンドアップマックスロード ラウンドアップマックスロードAL製品

無登録品

(農水省登録を取得していない製品)

グリホサートを一括りにするのではなく分けて考えなければなりません。

登録取得のために必要な原体試験(抜粋)

(急性毒性、短期毒性、長期毒性、遺伝毒性、発がん性、生殖毒性、その他毒性に関わる試験)

試験	登録品	登録品 (食用、飼料用に利用されない農作物に使用)	無登録品
急性経口毒性	○	○	未確認
急性経皮毒性	○	○	
急性吸入毒性	○	○	
皮膚感作性	○	○	
90日間反復経口投与毒性	○	○	
遺伝毒性	○	○	
慢性毒性	○	×	
発がん性	○	×	
繁殖毒性	○	×	
発生毒性	○	○	

ラウンドアップマックスロード製品の有効成分であるグリホサートは、
国によって発がん性がないことが確認されています。

農薬として使用することができない除草剤の販売等について (厚労省、農水省、経産省、環境省 連名での通知)

※農薬として使用することができない除草剤 = 無登録除草剤

2019年3月28日付で通知

- 販売所ごとに、公衆の見やすい場所に、農薬として使用することができない旨を表示すること。

[分かりやすい表示の例]

こちらの除草剤は、農薬として使用することができません。このため、農作物や樹木・芝・花き等の植物の栽培・管理には使用できません。

[誤解を与えやすい表示の例]

こちらの商品は、非農耕地専用の除草剤です。農耕地には使用できません。

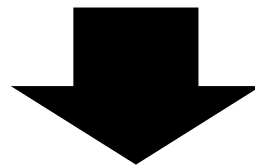
- 農薬に該当しない除草剤と農薬登録のある除草剤を明確に区分して陳列すること。
- レジや売り場で、農薬に該当しない除草剤を農作物や樹木・芝・花き等の植物の栽培・管理に使用しないよう購入者に説明。

**店頭での販売方法等ルールが厳格化され、
小売業が無登録除草剤を販売するリスクは以前よりも高まっています。**

6. グリホサートの海外各国における規制状況と使用量

SNS等で見受けられるコメント

- ✓ グリホサートは発がん性や遺伝子への影響があるとして**世界で販売禁止の流れ**
- ✓ グリホサートに発がん性の疑いが強まり、**使用禁止や規制強化に踏み切る動きが欧米やアジアで広がっている。**
- ✓ ラウンドアップ[®]の強い毒性や、**各国が使用禁止に動いていることを、皆さんあまり知らない**



実際の規制状況は？

グリホサートの海外各国における規制状況について

	グリホサートに対する措置		農業用以外の農薬全般に対する措置	
	輸入または使用禁止	一部禁止	化学農薬禁止	除草剤禁止
サウジアラビア	2019年初めに解除			
クウェート	2019年初めに解除			
アラブ首長国連邦	2019年初めに解除			
バーレーン	2019年初めに解除			
オマーン	2019年初めに解除			
ベトナム	×			
マラウイ	2019年5月輸入停止解除			
フランス		ラウンドアップ® 360のみ×	×	
スリランカ		茶・ゴム以外×		
ベルギー				×
スロヴェニア				×
バミューダ諸島			希釈するものは×	
カナダ(バンクーバー)			公共の場と家庭園芸は×	
オランダ			舗装面と非農耕地は×	

グリホサートの海外各国における使用比率(2017年)

出展 : imap-3

※日本のグリホサート使用比率 = 0.9%

世界各地域のグリホサート使用比率

	Share (%)
Africa	2%
Asia	15%
Europe	5%
Latin America / Caribbean	46%
North America	25%
Oceania	7%
TOTAL	100%

EU各国のグリホサート使用比率

	Share (%)
Spain	0.8%
Italy	0.7%
France	0.5%
UK	0.3%
Greece	0.2%
Poland	0.1%
Germany	0.1%
Austria	0.0%

7. 安全性についての当社の対応と危機管理体制

当社の対応と危機管理体制

- 各企業様への消費者からの問合せ等については、都度連絡を受け、個別に当社の見解を報告。
- 新聞、雑誌、TV等での報道につきましては、誤りがあった場合は抗議文等の送付による対応を実施。
- メディア関係以外に対して個別の反論は行っていないが、毎日24時間体制でSNSをトラックし情報収集。
- 今後も小売企業の皆様に対し、課題に対する情報共有、早期対応を実施する。
- 現在、この件について、当社に対する訴訟案件はありません。

小売企業様の対応状況

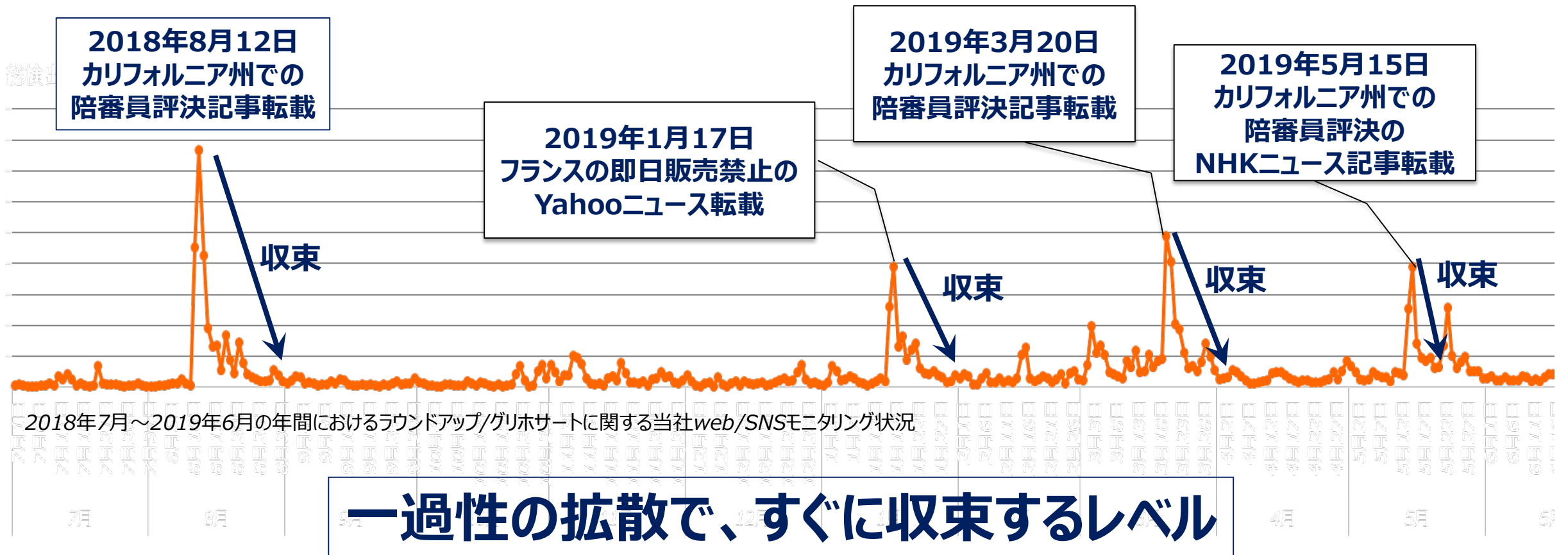
- 現在、コープさっぽろ様が組合員様からの声により、一旦販売を休止されておりますが、その他の小売企業様において販売中止等の対応をしたところはありません。
- 店頭での展開の縮小等もありません。
- 農水省の登録を取得している商品に関しては、継続して販売しています。
- 無登録グリホサート商品を取り扱っている企業は、売り場・POP等の再確認を強いられています。

誤った記事に対するメディアへの抗議活動

HP掲載日	抗議対象メディア	メディアからの回答
2013.11.19	テレビ大阪10/5放送内容	謝罪文と訂正放送放映
2013.12.04	毎日新聞10/22記事	謝罪文とお詫び記事掲載
2014.06.02	琉球新報4/30記事	謝罪文と訂正記事掲載
2014.07.11	週刊文春4/17記事	謝罪文書受領
2014.12.24	週刊プレイボーイ11/24記事	謝罪文と訂正記事掲載
2016.04.27	NHK 11/25BS放送	釈明文受領
2019.01.30	女性自身1/29号	謝罪文受領

抗議文発送日	抗議対象企業	企業からの回答
2019.7.19	通信販売会社	文書にて謝罪 + 会員に訂正文書送付

web/SNSモニタリング概況



安全性に関する専門家による情報発信サイト

AGRI FACT

運営：農業技術通信社

<https://agrifact.dga.jp/>

農と食にまつわる噂・ニュース・風評の「ウソ？本当？」を検証するサイト

今後のラウンドアップ®販売について

ラウンドアップ®マックスロード製品につきましては、

今後とも自信を持って販売を継続し、

販売拡大に向けて努力してまいりますので

ご安心くださいますようお願い申し上げます。

免責事項

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確定要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。